

飲酒運転事故に関する基礎知識

自動車を飲酒運転して事故を起こしますと、刑事・民事の責任を負うばかりではありません。生きがいにしていた仕事を失うなど、人生そのものが暗転しかねません。飲酒運転防止に特効薬はなく、すべては本人の心がけ次第です。正月は酒の誘いも多い時期。飲酒運転事故に関する基礎知識をまとめましたので、これを読んで気を引き締めて下さい。

1. 飲酒運転に対する厳罰化

(1) 危険運転致死傷罪

危険運転致死傷罪は、乗用車、バス、トラックなどの運転者が、「正常な運転が困難な状態」で運転し死傷者を発生させた時に適用されます。死亡させた運転者は「15年以下の懲役」、負傷させた運転者は「1年以上の懲役」になります。飲酒運転のほか、無免許運転、スピード違反で死傷者が発生した場合に、「正常な運転が困難な状態」でなかったかが判断されます。

(2) 行政処分

違反行為等	点数	処分の内容	期間	
危険運転致傷罪	45点	取消し	5年	
酒酔い運転	25点	取消し	2年	
酒気帯び運転	0.25mg以上	13点	停止	90日
	0.15mg以上0.25mg未満	6点	停止	30日

2. 飲酒に関する基礎知識

(1) アルコール依存症

習慣的な飲酒を続けていると、体に耐性ができ、酒量は増えていきます。飲む量が増えて、コントロールできなくなった状態を「アルコール依存症」といいます。酒を習慣的に飲む人なら、だれでもなる可能性があります。また、除々に進行するため、自分では気づきにくいといわれています。

(2) アルコール体内残量

体調・飲酒時間などにもより、個人差もありますが、基本的には、ビールを3本飲むと、その影響は10時間続くとされています。